

株主のみなさまへ

第106期 事業報告書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで



静甲株式会社

目次

● ごあいさつ	1
● 事業の概況	2
● グループ概要	7
● 業績の推移（連結）	8
● 業績の推移（個別）	9
● 連結財務諸表（要旨）	10
● 個別財務諸表（要旨）	11
● トピックス	12
● 会社の概況	13

ごあいさつ

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社第106期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、期前半は好調な企業収益に支えられて設備投資が増加し、個人消費にも持ち直しの動きが見られるなど景気は緩やかな拡大基調で推移いたしました。後半は原油や原材料価格の高騰に加えて、サブプライムローン問題の深刻化による米国経済の後退懸念などにより景気の先行に不透明感が強まりました。このような経済環境の下、当社グループの車両関係事業では、厳しい新車販売環境の中、スバル新車販売部門の販売台数が落ち込みましたが、電機機器事業及び冷間鍛造事業は前連結会計年度に引き続き好調を維持し、産業機械事業でも大型包装機械を売り上げることができたため、当社グループ連結の売上高は258億5千9百万円（前期比5.1%増）となりました。

一方、利益面では、産業機械事業において、開発的要素が多い大型物件の一部が原価高となり利益を圧迫し、経常利益は4億7千万円（前期比14.4%減）となりましたが、当期純利益につきましては、特別損失が減少したことなどにより、前連結会計年度並みの2億1千2百万円（前期比1.5%減）となりました。

当期の期末配当金につきましては、1株につき8円として、先に実施いたしました中間配当金と合計した年間の支払配当金は1株につき16円とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月

取締役社長 鈴木 恵子

事業の概況

産業機械事業

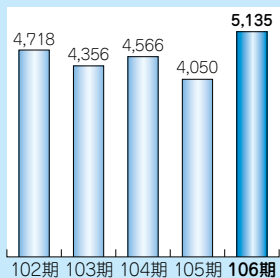
〔概況〕

産業機械事業では、多品種少量生産向けの充填巻締機シリーズの販売が伸び悩みましたが、大型・中型の包装機械では新しく製品ラインアップに加えたネック搬送充填システムを搭載した充填ラインを販売することができ、また、医薬関連向けの大型包装機械を売り上げることができましたので、売上高は51億3千5百万円（前期比26.8%増）となりました。しかしながら、厳しい価格競争により受注価格が低下する一方で、開発的要素が多い大型物件の一部で発生した原価高により、営業利益は7千8百万円（前期比72.5%減）となりました。

〔対処すべき課題〕

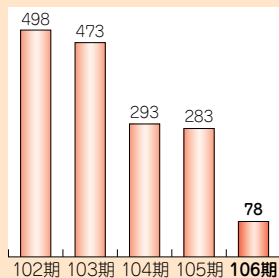
産業機械事業では、厳しい価格競争により受注価格が低下する中で、多様化するお客さまのニーズに対応した高品質な機械を提供しつつ、適正な利益も確保していくことが課題となっております。そのため、設計担当部署を中心として原価管理体制を強化するとともに、機械の標準化を推進して原価の低減と納期の短縮に取り組んでまいります。また、引き続きネック搬送充填システムやパウチ充填シール機など既存機種の新機種の開発を推進して積極的な営業活動を展開してまいります。

売上高



単位：百万円

営業利益



単位：百万円



充填キャッパー

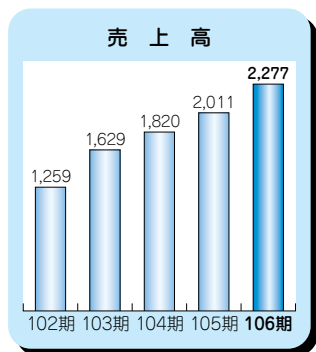
冷間鍛造事業

〔概況〕

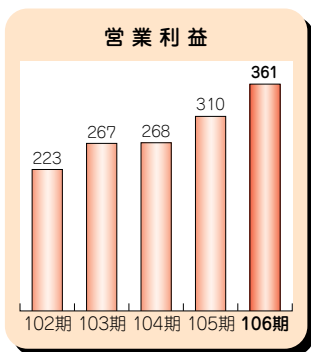
冷間鍛造事業では、納入先メーカーのEU向け輸出が増加したことにより、主力である電動工具部品の売上が増加いたしました。好調な受注に対応するため、三交替勤務によるフル生産を継続しながら、製造現場での小集団活動を中心とした改善活動を推進した結果、売上高は22億7千7百万円（前期比13.2%増）となり、営業利益は3億6千1百万円（前期比16.6%増）となりました。

〔対処すべき課題〕

冷間鍛造事業では、お客様の要望に応え、生産能力を引き上げて納期の短縮を図るとともに品質の向上をめざし、主要な生産設備であるプレス機の新規導入と潤滑処理装置の更新をはじめとした設備投資を行います。また、将来の受注量の変動リスクに備えるため、特定分野からの受注に偏ることなく、幅広い分野の開拓をめざしてまいります。



単位：百万円



単位：百万円



新規受注の自動車部品

電機機器事業

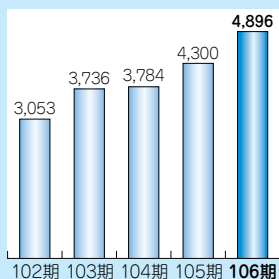
〔概況〕

電機機器事業では、半導体製造装置や工作機械製造に関連する県内製造業向けに、FA関連機器の販売が好調に推移しました。このような市況の中、昨年10月には三島営業所を開設し、県東部地域における営業拠点の再構築を行って販売体制を強化するとともに、販売店に対する営業面及び技術面での販売支援活動を充実させて拡販に努めました。この結果、売上高は48億9千6百万円（前期比13.9%増）、営業利益は3億1千3百万円（前期比17.9%増）となりました。

〔対処すべき課題〕

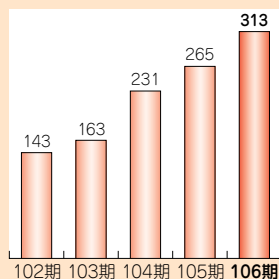
電機機器事業では、FA関連機器の売上拡大に伴い、従来、ひとつの部で行っていたFA関連機器の販売事業と設備機器及び空調・冷熱機器の販売事業とを分離して、ふたつの独立した部とする組織変更を行いました。今後は、それぞれの事業特性に応じた、きめ細かな営業活動を推進して、更なる事業の拡大に努めます。特にここ数年好調が続いているFA関連機器の販売事業については、従来の営業基盤である県中部に加えて、西部・東部地区の販売を強化し、収益の拡大に努めてまいります。

売上高



単位：百万円

営業利益



単位：百万円



汎用ACサーボ



ガスタービン発電設備

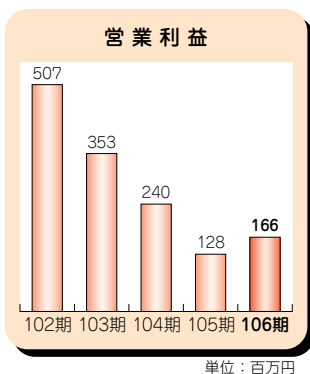
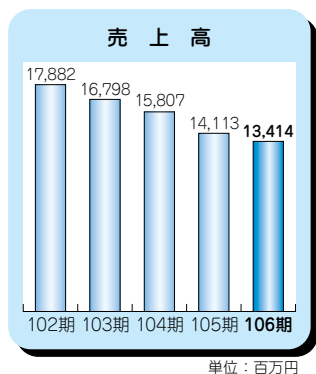
車両関係事業

【概況】

車両関係事業では、連結子会社の静岡スバル自動車(株)において、フォレスターのフルモデルチェンジにより1月以降になって小型・普通乗用車の販売台数が増加したものの、市場全体の落ち込みに加え、スバルの強みであるステーションワゴン等の需要減少と軽自動車の販売不振から新車販売台数が前連結会計年度を下回りました。この結果、売上高は134億1千4百万円（前期比5.0%減）となりました。営業利益はフルモデルチェンジの影響や販売・サービスの連携による活動の成果もあり、1億6千6百万円（前期比29.3%増）となりました。

【対処すべき課題】

車両関係事業では、仕入先である富士重工業(株)から、これまでの商品ラインアップに欠けていた多人数乗りの車種であるエクシーガが平成20年6月に発売されました。また、トヨタグループとの関係強化により、今後同グループからコンパクトカーのOEM供給も予定されておりますので、既存のお客さまのフォロー活動を強化するなど販売活動の見直しを図り新車販売台数の増加に努めるとともに、整備部門など周辺事業の強化による収益の向上に注力してまいります。



EXIGA

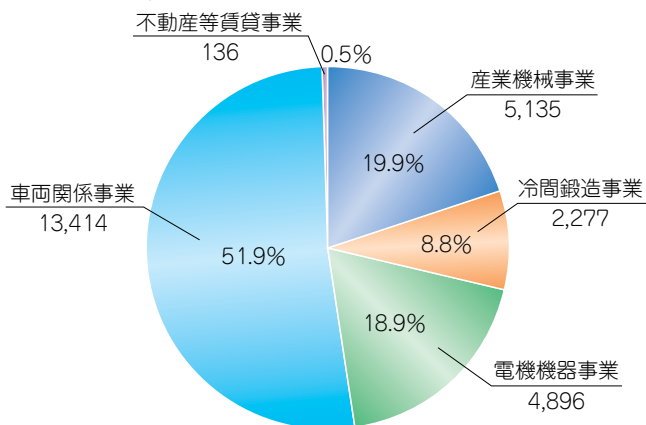


SUBARU EXIGA (エクシーガ)

セグメント別売上高・営業利益

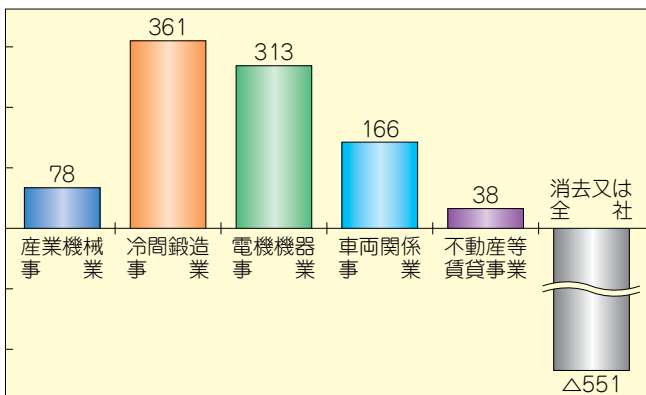
■ 売上高

単位：百万円



■ 営業利益

単位：百万円

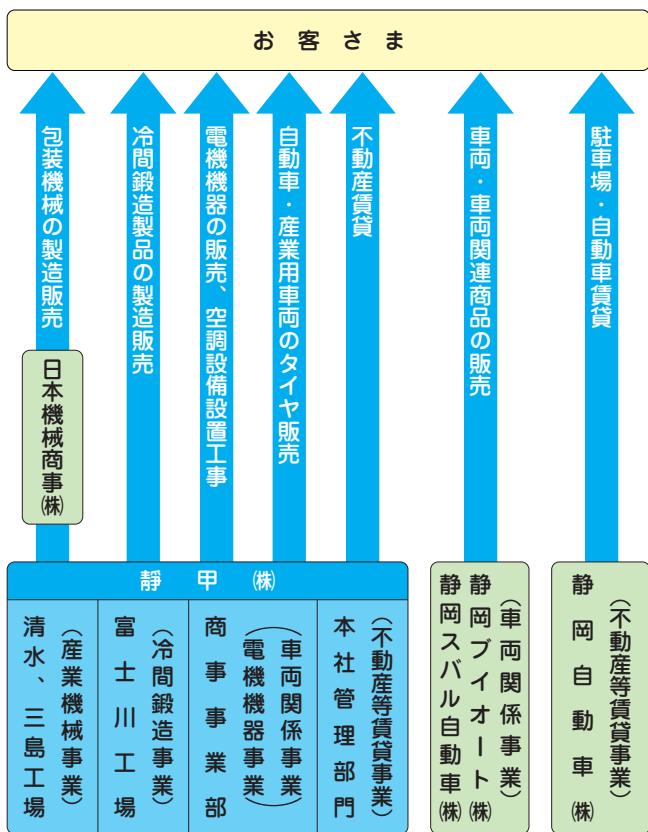


(注)「消去又は全社」は、主にセグメント別に配布することができない当社の総務課等管理部門に係わる費用であります。

■ セグメント別の主要な事業内容

セグメント	主要な事業内容
産業機械事業	包装機械等の製造販売、修理・改造
冷間鍛造事業	冷間鍛造製品の製造販売
電機機器事業	FA機器・空調機器・冷凍機器等電機機器の販売及び空調設備設置工事
車両関係事業	車両及びその関連商品の販売
不動産等賃貸事業	駐車場経営及び貸自動車事業等

グループ概要 (連結子会社)



■ 連結子会社の状況

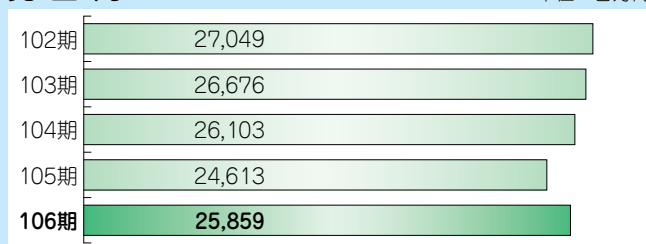
会社名	資本金	当社の議決権比率	主な事業内容
日本機械商事株式会社 (本社：東京都)	150,000 ^{千円}	100.00%	包装機械の販売
静岡自動車株式会社	16,000	100.00	駐車場業・レンタカー業
静岡スバル自動車株式会社	961,000	50.36	自動車の販売修理
静岡ピオート株式会社	80,000	50.36	輸入自動車の販売修理

(注) 静岡ピオート株式会社は、静岡スバル自動車株式会社の100%子会社であります。

業績の推移(連結)

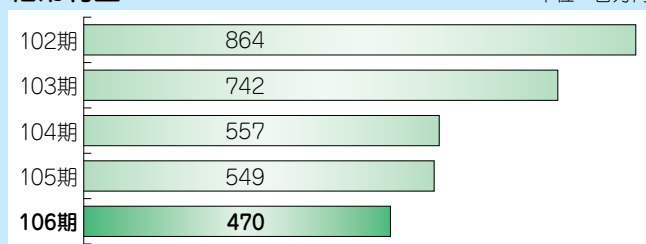
売上高

単位：百万円



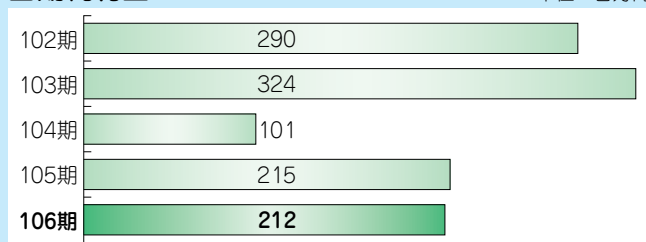
経常利益

単位：百万円



当期純利益

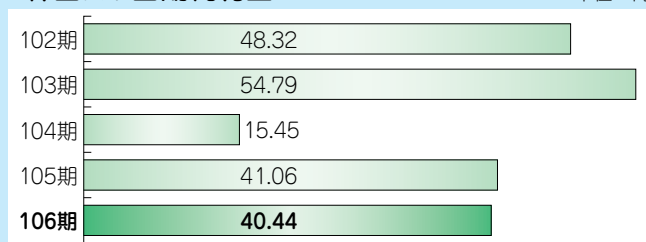
単位：百万円



104期は、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失1億6千6百万円を特別損失に計上しております。

1株当たり当期純利益

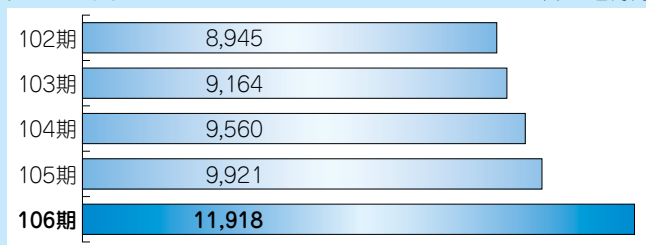
単位：円



業績の推移(個別)

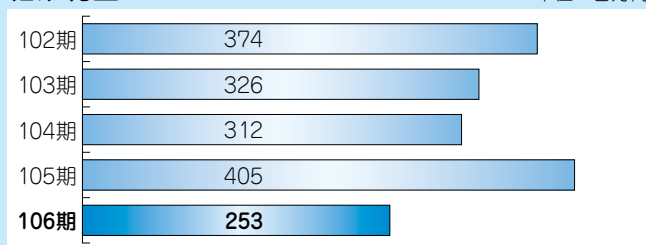
売上高

単位：百万円



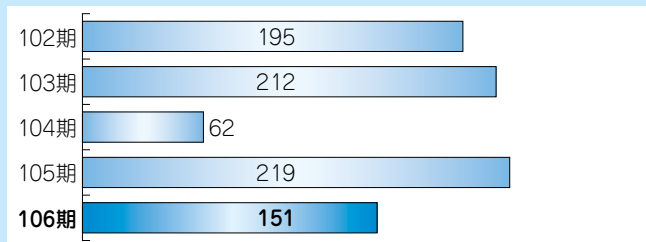
経常利益

単位：百万円



当期純利益

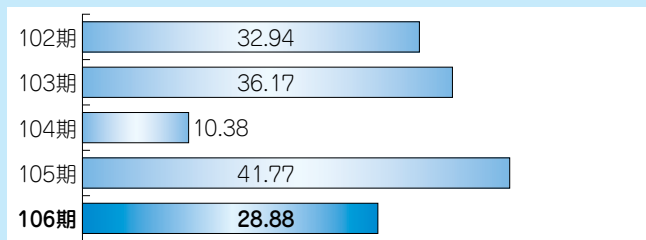
単位：百万円



104期は、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失1億6千6百万円を特別損失に計上しております。

1株当たり当期純利益

単位：円



連結財務諸表(要旨)

■ 連結貸借対照表(平成20年3月31日現在)

単位：千円

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産	9,033,650	流動負債	3,788,224
現金及び預金	2,304,477	支払手形及び買掛金	2,427,950
受取手形及び売掛金	4,663,419	その他	1,360,273
たな卸資産	1,561,447	固定負債	1,302,170
その他	506,573	〈負債合計〉	〈5,090,394〉
貸倒引当金	△2,266		
固定資産	9,327,003	株主資本	10,486,054
(有形固定資産)	(7,130,297)	資本金	1,337,000
建物及び構築物	2,422,779	資本剰余金	1,242,814
土地	3,920,454	利益剰余金	7,906,240
その他	787,063	評価・換算差額等	524,484
(無形固定資産)	(62,144)	その他有価証券評価差額金	524,484
(投資その他の資産)	(2,134,561)	少数株主持分	2,259,720
投資有価証券	1,641,466	〈純資産合計〉	〈13,270,259〉
その他	493,094		
資産合計	18,360,654	負債及び純資産合計	18,360,654

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

単位：千円

売上高	25,859,876
売上原価	21,105,762
販売費及び一般管理費	4,348,370
営業利益	405,742
営業外収益	104,194
営業外費用	39,793
経常利益	470,144
特別利益	25,398
特別損失	25,629
税金等調整前当期純利益	469,913
法人税、住民税及び事業税	201,955
法人税等調整額	512
少数株主利益	55,135
当期純利益	212,310

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結株主資本等変動計算書(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

単位：千円

	株主資本				評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
平成19年3月31日残高	1,337,000	1,242,814	7,777,929	10,357,744	745,937	2,235,968	13,339,650
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△84,000	△84,000			△84,000
当期純利益			212,310	212,310			212,310
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					△221,453	23,751	△197,701
連結会計年度中の変動額合計	—	—	128,310	128,310	△221,453	23,751	△69,391
平成20年3月31日残高	1,337,000	1,242,814	7,906,240	10,486,054	524,484	2,259,720	13,270,259

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表(要旨)

■ 貸借対照表 (平成20年3月31日現在)

単位：千円

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産	6,139,661	流動負債	1,847,846
現金及び預金	1,668,921	支払手形及び買掛金	1,184,521
受取手形及び売掛金	3,408,771	その他	663,324
たな卸資産	856,413	固定負債	775,635
その他	205,687	〈負債合計〉	〈2,623,481〉
貸倒引当金	△133		
固定資産	5,964,217	株主資本	8,978,649
(有形固定資産)	(2,977,353)	資本金	1,337,000
建物及び構築物	1,086,099	資本剰余金	1,242,814
土地	1,487,283	利益剰余金	6,398,834
その他	403,969	評価・換算差額等	501,748
(無形固定資産)	(19,883)	その他有価証券評価差額金	501,748
(投資その他の資産)	(2,966,980)	〈純資産合計〉	〈9,480,397〉
投資有価証券	1,358,878		
その他	1,608,110		
貸倒引当金	△8		
資産合計	12,103,878	負債及び純資産合計	12,103,878

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

単位：千円

売上高	11,918,069
売上原価	10,373,866
販売費及び一般管理費	1,394,278
営業利益	149,924
営業外収益	132,035
営業外費用	28,561
経常利益	253,398
特別利益	4,663
特別損失	14,253
税引前当期純利益	243,808
法人税、住民税及び事業税	66,647
法人税等調整額	25,523
当期純利益	151,637

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

単位：千円

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
平成19年3月31日残高	1,337,000	1,242,814	6,331,197	8,911,012	709,009	9,620,021
事業年度中の変動額						
剰余金の配当			△84,000	△84,000		△84,000
当期純利益			151,637	151,637		151,637
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)					△207,261	△207,261
事業年度中の変動額合計	—	—	67,637	67,637	△207,261	△139,623
平成20年3月31日残高	1,337,000	1,242,814	6,398,834	8,978,649	501,748	9,480,397

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

● 冷間鍛造事業での設備投資について

電動工具や自動車などの部品製造を行う冷間鍛造事業での旺盛な受注に対応するため、当社富士川工場（所在地：静岡県庵原郡）において、生産能力の増強を目的とした設備投資を行います。

このたび実施するのは、生産設備の中核となる大型の1000トンサーボプレス機の増設と、材料の前処理工程で使用する潤滑処理装置の更新です。両設備を合わせて、総額約4億2千万円の設備投資であり、平成20年9月から本格稼働の予定です。

今後とも、省資源、省エネルギー、省コストである冷間鍛造技術により、お客様から信頼され、満足していただける製品作りを行ってまいります。



富士川工場



サーボプレス機

会社の概況 (平成20年3月31日現在)

- 社 名 静 甲 株 式 会 社 (SEIKO CORPORATION)
- 設 立 昭和14年5月18日
- 資 本 金 13億3,700万円
- 従 業 員 数 279名
- 株式の状況

会社が発行する株式の総数 19,200,000株
発行済株式の総数 5,250,000株
株 主 の 総 数 332名
大株主(上位10名)

株 主 名	持 株 数	出資比率
鈴 与 株 式 会 社	1,264,000株	24.08%
鈴 木 惠 子	602,000	11.47
有限会社テイエムケイ	340,000	6.48
鈴 木 美 代	320,000	6.10
株 式 会 社 静 岡 銀 行	260,000	4.95
株 式 会 社 清 水 銀 行	250,000	4.76
清 水 食 品 株 式 会 社	204,000	3.89
中央三井信託銀行株式会社	152,000	2.90
静 甲 従 業 員 持 株 会	127,000	2.42
イアリス 切 インターナル I-シ	127,000	2.42

- 役 員 (平成20年6月26日現在)

代表取締役 鈴木 惠 子
取締役社長
取 締 役 分 部 清 史
取 締 役 別 府 弘 祥
取 締 役 中 村 元 保
取 締 役 小 野 田 敦
取 締 役 掛 下 昌 信
取 締 役 鈴 木 武 夫
取 締 役 濱 高 光 治
常勤監査役 塩 谷 達 雄
社外監査役 大 嶋 秀 龍
社外監査役 梅 田 健 司
社外監査役 馬 杉 秀

株式事務のご案内

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月中
定時株主総会の 基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当…3月31日 中間配当…9月30日
公告掲載紙	日本経済新聞 なお、決算公告に代えて、貸借対照表、損益計算書は、EDINET(金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)にて開示しております。 <EDINETホームページアドレス> http://info.edinet-fsa.go.jp ※貸借対照表及び損益計算書は当社ホームページIRコーナーでもご覧いただけます。 <当社ホームページアドレス> http://www.seiko-co.com
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

〔株式の名義書換、配当金のお支払及び諸届等のお問い合わせは、上記株主名簿管理人の事務取扱所並びに同取次所でお取り扱いいたします。なお、証券保管振替機構に預託されました株券についての諸届及び手続等に関するお問い合わせは、お取引先の証券会社へお願いします。〕



<http://www.seiko-co.com>